

「学校関係者評価委員会」の開催について

本校においては、教育や業務の改善を図るために、自己点検・評価に取り組んでまいったところですが、2013年度からは、卒業生を含め本校に関係の深い業界団体、関係企業の方々を中心に「学校関係者評価委員会」を設置し、ご意見等をお聞きして、教育活動や学校運営に反映させております。

2022度の学校関係者評価委員会については、新型コロナウイルス感染防止対策を行いながら、2022年5月下旬に対面およびオンライン参加によるハイブリッド型会議として開催いたしました。

今後とも、学校関係者評価委員会の運営に対してご理解並びにご支援・ご協力をお願い申し上げます。

2023年 6月

学校法人Y I C学院

Y I C京都ペット総合専門学校

校長 村田 忠男

YIC 京都ペット総合専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

会議名	2022年度 第1回 学校関係者評価委員会
日時	日 時：2022年5月20日（金） 13:30～15:00
場所	場 所：YIC 京都ペット総合専門学校 1号館3階131教室
参加委員	公益社団法人京都市獣医師会：森様（オンライン） 益社団法人滋賀県獣医師会：石田様 株式会社ひごペットフレンドリー：植田様（オンライン） 株式会社 Lovely：塚本様 一般社団法人ジャパンケネルクラブ：西村様 ダクタリ動物病院 京都医療センター：丸山様 事務局：村田校長、飛田副校長、山根管理部長、澤学生支援課長、五郎畑教務課長、井田学科長、北村学科長 オブザーバー：細田本部長、鳥井（内部監査・IR 戦略室）
議長	石田委員
記録者	内部監査・IR 戦略室：佐藤
配布資料	委員名簿、2021年度の自己点検評価結果（オンラインの皆様にはZOOMで共有）
進行	
1) 校長挨拶	<p>ご多忙の折、本日はお集まりいただきありがとうございます。平素より大変お世話になっており、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。</p> <p>本校の最近の状況からご報告いたします。この2年ほどコロナの影響で活動制約が続いてきた。今年の5/8にJKCのドッグショーが福井で開催されるということでペット総合科、動物看護科の学生が参加させていただき、行事が徐々にコロナ前に戻りつつあると感じている。</p> <p>3月には卒業生がペット総合科で72名、動物看護科で38名卒業した。就職率はペット総合科で97.8%、動物看護師で96.9%と比較的高い水準で維持している。</p> <p>本年度の入学についてはペット総合科80人定員、動物看護科60人3年制に移行した。</p> <p>両学科とも募集は順調。入試に関しては高校の進路指導に配慮して9月からAO入試をスタートしている。10月から一般入試等がスタートする。それは高等学校の進路指導への配慮として余り早すぎる進路決定にならないようにしている。従って他校と比べると受験が少し遅くなっており、他校からの落伍者が入ってきている傾向も考えられる中、倍率もあって昨年も不合格者、お断りを出している状況。今年度もその傾向があると認識している。</p> <p>この5月、60名定員に変更した動物看護科の指定養成施設の申請期限となっており現在準備を整えている。指導ガイドラインというものがあり、比較的現状に即したものとなった。したがって大きな施設、設備の補強は必要なく、3年制になるため、普通教室が拡大、教員の補充はする必要があった。ペットは1号館を主に利用しているが、1号館だけでは面積が足りてなく、2号館および3号館の6階を動物看護等の利用エリアに連結した施設として改修した。それに伴い3号館のアクアルームがあるが1号館への移転など環境改善に取り組んでいる。</p> <p>専門学校の最近の状況については、大学も含め私立学校について、日本大学はじめさまざまな不正が表沙汰となり、私立学校のガバナンスが問われている。現在、ガバナンス強化に向けて評価が厳しくなっており、近々改正案が国会に提出されるとも聞いている。</p> <p>また、今年の3月に専門学校における職業実践専門課程の充実に向けてという報告がなされました。本校もそのガイドラインに従ってガバナンス強化に取り組んで。職業実践専門課程として文部科学大臣の認定をいただいているが、認定要件である学校関係者評価委員会の運用についても触れられており、学校関係者評価委員会の決定を踏まえ、第3者評価に準じた評価を活かしながら充実した議論をしてもらいたいとのこと。</p> <p>本日もいろいろ議論いただき学校運営に活かしていきたいので多くのお意見をいただき、誠実に対処して参りたい。</p>
2) 関係者評価委員紹介	各委員挨拶
3) 教職員紹介	各教職員挨拶
3) 定員数確認および委員長の選出	学校評価委員会規程第7条に基づき、6名中、6名全員で参加で本委員会は成立する。（柴山委員は遅れて参加された）、委員長は石田委員を推薦、全員に承認された。オンラインの為、司会は山根
4) 配布資料等確認	委員会名簿、議案、自己点検評価結果

5) 議事

1. 2021 年度の自己点検評価結果について

資料「2021 年度 YIC 京都ペット総合専門学校 自己点検評価結果」に基づき以下の項目の報告および取り組み状況と課題・改善策について飛田より説明された。

- ① 1. 教育理念・目標
- ② 2. 学校運営
- ③ 3. 教育活動
- ④ 4. 学習成果
- ⑤ 5. 学生支援
- ⑥ 6. 教育環境
- ⑦ 7. 学生の受入れ募集
- ⑧ 8. 教育の内部保証システム
- ⑨ 9. 財務
- ⑩ 10. 社会貢献・地域貢献
- ⑪ 11. 国際交流

2021 年度の振り返りを行い上がった課題について 2022 年度に取り組みについてご報告します。

資料の黄色で示したところが今回の課題としてご覧いただき、課題の取り組みについてご意見をいただきたく、よろしくお願ひします。昨年から課題を見だし、皆様よりご意見をいただきましたが、現状、改善できていないところなどもある。例年、教務課長、学科長各自から評価を得て、課題抽出を行った。

2. 2022 年度の課題と重点項目について

評価項目	項目	課題と今後の改善
1. 教育理念・目標	1-5	課題：1-5 の評価を 3 とした。1-5 において、オリエンテーションの資料では本校の教育特色の記載がない。とし、エビデンスとして学生便覧を上げているが、本年度は昨年の課題であった DP 等については卒業時にどのような資格を有し卒業させるかなど学生便覧を新たに作り直すなど行った。改善方策：学生便覧に記載しているが、どのタイミングで周知するのは検討する必要があるが、教育特色に関する説明を追加する。とした。特に DP で卒業時の資格要件が 3 校共通ということもあり、明確でないことを見直し学生便覧を見直する。学校の特色については入学時にはなく、今後追加して改善を図りたい。
2. 学校運営	2-7 2-8 2-9	2-7,2-8 専任教員の講義・実習負担は妥当であるか、2-9 教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているかにおいては、毎年 4 月に講師懇談会を開催しているが十分とは言えない。改善方策：教員のスキルアップを含めた研修の機会や対話の機会が作れていないとしてこれらを必要とした。今後は、授業参観や勉強会・研修会等を企画する必要がある。E-learning・オンライン・対面での研修会を企画する。とし、教務課長、学科長含めさまざまな課題を認識している。
3. 教育活動	3-1 3-2	課題：3-1 と 3-2、3-5、3-12、3-14、3-15 の評価を 3 とした。また、3-17 動物看護師資格にもっとも重要なインターンシップについて、依頼先の獣医師等と十分なコミュニケーションをとり、その内容、評価法などを事前に決めていくについては 4 としているが、動物看護師資格に最も重要なインターンシップについて十分とは言えない。 3-8 のシラバスなどでできているが、ペットも看護もシラバスはあってもコマシラバスの作成が不十分。 3-1、3-2 学習習慣の見直しについて、新入生に対して昨年 10 月には募集が終了しているので、学校に入学するまでに学習課題に取り組むや、基礎学力を維持するなど入学後の実力テストの評価なども踏まえ、学生指導の勉強会などを行いながら指導している。秋に行う委員会でその取り組みを報告したい。
4. 学習成果	4-5 4-11	4-5、4-11 において企業と連携した卒業生の動向を十分把握できていない。などを評価 3 とした。 卒業生の動向調査はキャリアで行っているが、卒業生全員を対象として実施できていない。4-11 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているかについては特定の企業だけで就職先へ訪問などができていない。回答可能な企業へのアンケートをキャリアマップの機能で実施する。
5. 学生支援	5-5 5-9	5-5、5-9 について評価を 3 とした。 5-5 卒業生の支援体制 5-9 授業についてこれらしない学生の対応 多数の課題

6. 教育活動	6-5	6-5 施設・備品の環境整備 Wi-Fiのインフラ整備を5Gを含め検討、ICTの取り組みもコロナにより具体的に実行することとなった。オンデマンドや双方向型に取り組んだが、学生のインフラなども課題となった。
7. 学生の受入れ募集	7-7	7-3においてペット総合科の選抜方法が求める人物像を選抜するには十分ではない。 7-3 ペット総合科の選抜方法
8. 教育の内部保証システム	3-8 3-17	8-1、8-2において、評価3とした。 課題：8-1、8-2、8-3においては授業アンケート項目・実施頻度、授業参観の実施は十分とはいえない。QUなど利用しているが改善策の検証が十分とはいえない。 改善方法等が不十分
10.	4-5 4-11	4-5, 4-11について評価を3とした。 課題：10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているかにおいてはコロナ禍の影響から十分に取組んでいるとはいえない。 今後の改善方策 愛護センターとの連携で一時預かりボランティアを実施している。 ボランティア活動を通して、地域貢献だけでなく学生の成長にも繋げていく事が重要。（主体的に取り組む姿勢を見つけてさせる） 留学生 現在、1名在籍している。
5. 学生支援	5-5 5-9	5-5、5-9について評価を3とした。 課題：5-5 卒業生への卒業後教育等の支援体制はあるか、5-9 授業についてこられない学生に対して、リメディアル教育や他コースの紹介などの支援策を実施しているかについて 5-9 看護科は放課後の勉強会をするなど取組の再周知を徹底し、支援実績に関しては記録を作成する トリマーはメンテナンスを実施している。 スピードと数をこなすことをしている。
6. 教育環境	6-1 6-4 6-10 6-11	6-1について評価2、6-4、6-10、6-11について評価3とした。 課題：6-1～5において、新規購入、教室リニューアル、インターネット環境整備等インフラ整備を進めていく。6-11 外部の動物病院等へのインターンシップにおいて、学生に学ばせたい技術、知識などを事前に相談しているか、また評価基準なども相談しているかについてはコロナ禍で企業から中止のご連絡をいただいたところもあったりと活動できていないこともあったが、昨年度はインターンシップを実施した。今年は滋賀県獣医師会様とも連携を取り合っていきたい。 。
7. 学生の受入れ募集	7-3	7-3において、評価は4としたが、ペット総合科の選抜方法が求める人物像を選抜するには十分ではない。昨年より応募が増え、選抜するのに苦慮している。入試選抜方法を考慮して今年度も実施する。特定とは言いつつまでではないが、本校が求める人物像に選抜できるよう取り組み、次回に報告したい。
8. 教育の内部保証システム	8-1 8-2 8-3 8-7	8-1、8-2、8-3について評価を3とした。 課題：8-1、8-2、8-3においては授業アンケート項目・実施頻度、授業参観の実施は十分とはいえない。授業アンケート後の改善状況等の報告が不十分。 カリキュラム内容の改善など授業改善とまで行っていない。
9. 財務		特になし

10. 社会貢献・地域貢献	10-2	課題：10-2 学生のボランティア活動を奨励、支援しているかについては動物愛護センターと連携をとって、子猫の一時預かりを実施している。	
11. 国際交流	11-2	特になし 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているかについて、今年にはペット総合科に1名入学している。ビザの関係で就労することはできないが、技術を身につけたいという希望で入学している。	
3. 2020年度の取り組みへの意見等			
評価項目	項目番号	ご意見（委員）	回答（事務局）
学校運営	2-9	石田 教員の研修、まず、どういった方が教員になっておられ、なにか教員として資格はあるのか。 愛玩動物看護師に関しては国家試験に向けて看護師向けの研修が結構おこなわれている。 お調べになられたらどうか、いろいろとあり、滋賀県獣医師会としても取り組みを検討している。	2-9：教育内容の改善を図るため、教職員と非常勤講師等との定期的な情報交換を行っているか 飛田： 教員のスキルアップが必要。その取り組みが必要で、授業参観や勉強会・研修会等を企画する必要がある。E-learning・オンライン・対面での研修会を企画する。としたが、何かよい方法はないか。 学校の研修はビジネスマナーや授業の組み立てなどは行っているか実習に活かせるような研修がない。オンラインで動物看護師対象のセミナーはあったが、教員が久しく現場を離れているためそのような情報が欲しい。 授業構成や技術に関する研修の機会がなくこのあたりが課題。昨年はオンラインで獣医師や看護師の方々向けの研修に参加するなどした。 指導する教員が教える内容が現場と乖離していないかなども気になる。 本校の卒業生である教員であれば統一認定看護師資格、学生時代に取得した愛玩動物管理士などの資格はある。 学生は院内実習など経験させていただいているが技術やスキルを学ばせていただいているが、なかなか教員は現場に行く機会がないや元々臨床の現場にいたが、どんどん忘れてしまうので、獣医師会様の研修に参加させていただけると幸甚です。
学校運営	2-9	西躰 教員の方々にはJKCの資格を半強制的に取得いただいております、以前はペットショップのカット技術のようにただ見栄えよくしているというレベルであったが、今は教員の方々もライセンスを持っておられ、バランスなどカットであれば犬種に沿った指導に変わってきている。こちらの学校に初めて赴任した頃に比べると良い方向性に向かっていると感じている。 非常勤と常勤のコミュニケーションについてはまだまだと感じている。指導でも非常勤と常勤の指導に差があるなどは今後	飛田：トリマーの方ではいかがでしょうか。 教員には更に上の資格を目指すよう話しているが教員が学べるような機会を作っていただきたい。

		は改善があるとよい。	
学内運営	2-9	塚本:まずはどのような方が教員をなさっておられるのか現場を見ていないので、レベルを見させていただきたい。スキルが高ければ逆に失礼になる。入社していただいている卒業生の方々は年々、レベルが高い方増えてこられている、中にはトリミング技術だけではなく、ほかにマネジメントなどに興味をお持ちの方も入社いただいている。などそうした学生さんらを指導して居られる方々なのでよい先生方なのだと思います。	飛田: 昨先ほどお話を伺った社内の技術大会など学校の先生の研修ということについては 企業の方々に本校に授業を見学いただくや御社の技術大会を教員が見学させていただくなど交流の機会になればいいのでは。そのような機会を作っただけだと教員の刺激にもなる。
学内運営	2-9	丸山: 愛玩動物看護師の業務として採血、輸血や尿カテーテルの挿入などがあるが、それに向けては獣医に聞かやセミナーに参加している。	飛田: ご自身のスキルアップはどのようなさったのか 昨年、森委員からご提案いただいた看護師向けの研修の企画をご提案しているが一緒にできるとよいと思う。
学習成果	4-11	植田: 専門学校以外では大学からはよく在職しているか封書が届いて報告するようなフォームがある。 在職していない場合は無記で返信や在職している場合は部署、役職、職務など記載する欄があれば情報を学校と共有することはできるのではないか。	飛田: 企業訪問してヒヤリングができていない。卒業生の動向のその後のキャリアについてなかなかヒヤリングできていないが、卒業後のキャリアについてどのように伺うべきか他校の事例などお教えいただけないか
学習成果	4-11	塚本: 基本調査はFAXでおこなうや封書が一般的、店舗が遠隔地の場合はなかなか把握しきれていないこともある。他校は担当の方が訪問されている。	飛田: ありがとうございます。
学習成果	4-11	石田: 動物看護師の退職率について入社5年後に95%が退職していると聞いたことがある。卒業生が退職する前に、卒業生が悩んでいる段階で学校は把握できるようなシステムが必要ではないか。学校側からアプローチするなどしないと難しいのではないか。 学校から本人へ直接ヒヤリングするなど、学生、卒業生が学校に相談できる環境づくりが必要ではないか。	飛田: 求人票のご依頼に合わせてお尋ねした際もすでに退職したと伺うこともあった。本校では10年サポートとして学生支援で転職など相談を受けているが 澤: 学生にこちらからの発信はしていない 退社など相談事をいただいてから把握しているような状況。

学習成果	4-11	<p>塚本：他社を辞められた方が入社していることもある。新卒以外でお問い合わせの方がおられる。</p> <p>新卒時は3人しか採用していないのに調べてみると多くの同期の方が在職されていることもある。逆にアドバイザーコースの方が卒業なさってどのような職に就いておられるか伺いたい。</p> <p>トリマーの方は他社でもトリマー職をなさっておられると思うが、アドバイザーコースはどうか。</p> <p>企業努力の面もあるが、一般企業からくればと給与が低くみられる。数年働いた評価が低いと思われることも原因として我々企業も努力するべきところもある。</p>	<p>学校としては動物看護を辞めて別の職に就くというよりも関係職種で続けてもらいたい。</p>
学習成果	4-11	<p>西躰：学校側からメール等で確認してはどうか、人数が多すぎるのか</p> <p>現状どうであるや仕事内容や、相談の有無などを聞くようなものだとよいのではないか</p>	<p>澤：現在は実施していない。卒業生側からアクションがあれば対応している。お話を伺って必要性は感じている。</p> <p>他職種では交流もあり、その都度ヒヤリングしている。</p> <p>飛田：動物看護では国家試験に向けて動画視聴などが始まっているが、卒業生からの問い合わせもある。</p> <p>対策のポイントなど本校でも夏休みに向けて講習会の企画しています。</p>
学習成果	4-11	<p>卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか</p> <p>中途採用のお知らせなどして、詳しくは学校担当者に連絡してなどするのもよいのではないか</p> <p>卒業してしまうと求人情報誌を頼りがちだが、学校から発信があると情報を安心して見られるのではないか。それに対してアクションがあれば動向をつかむきっかけになるのではないか。</p> <p>卒業生はそうした情報がなく、離職率をさげることもならないか。</p>	<p>澤：在学中はキャリアマップのシステムで対応している。卒業したら利用できない契約になっている。グループウェアからは見ることができる。</p> <p>システムの課題がある。</p>
学生支援	5-9	<p>5-9 授業についてこられない学生に対して、リメディアル教育や他コースの紹介などの支援策を実施しているかについて</p> <p>塚本：トリマー職はスピードを求めたいが、トレーニング中に怪我するといけないので控えるようにしている。現場の店長など管理者と相談している。</p>	<p>技術の不足に対して</p>
学生支援	5-9	<p>森：YICだけではなく、卒業生へのフォローや学校に相談するような環境は国の指定であるのか、学校独自で行うことなのか</p> <p>卒業生が気軽に相談できるシステムがあるということか。学校へ電話して先生を捕まえることは難しいのでは、卒業後すぐが</p>	<p>飛田：卒業してからも相談できる窓口を周知している。</p> <p>学校独自の対応</p> <p>村田：エンロールマネージメントとして入学前から卒業までという流れを採用している学校もある</p>

		<p>よい、3年すると辞めてしまう LINEなど通じて学校から発信があると相談する気になるのではないか</p> <p>学校を出るとなにもなくなるが学校との接点がないのでは、学校からの発信があれば相談しやすい環境ができるのではないか</p>	<p>YICもそのように取り組んで入学前から卒業までを丁寧にフォローして、個人の個別最適化に努めるとしている。YICも取り組んでいる。</p> <p>飛田：LINEは利用していないが、学校にいたる間、求人システムで発信、通常授業ではGoogleクラスルームで連絡を取り合えるなど活用している。</p> <p>ありがとうございます。</p>
教育環境	6-11	<p>外部の動物病院等へのインターンシップにおいて、学生に学ばせたい技術、知識などを事前に相談しているか、また評価基準なども相談しているかについて</p> <p>石田：コロナの影響はないが、一般的なないようは問題はない。今回の国家試験に向けたカリキュラムを獣医師会として受ける際、受け入れられるところだけ、設備が整っているところだけで実施していただく方がよいと思う。 就職する場合はそうした美容院ばかりではないとは思う。</p>	<p>飛田：今年は滋賀獣医師会様にもご協力いただき実施したい。</p>
教育環境	6-11	<p>石田：院内見学はいいが、カリキュラムの評価、責任をとるとなると難しさがある。病院によって。</p>	<p>飛田 評価も難しい</p>
教育環境	6-11	<p>森：国家資格化に伴った実習の評価となると従来の院内実習の評価とはレベルが違ってくのか。責任が伴うとなると今年はちょっと心配している。</p> <p>その評価については文科省が判断するのかわからないが、国家資格の委員会でもそのあたりの内容は明確になっていなかった。獣医師会の方でも不安視する声があった。</p> <p>石田様が言われたとおり、病院によっては施設 の持ってる持っていないがある中、眼底鏡で目を読みなさいという課題があるときできないでもよいのか、できるものだけでよいのか。</p>	<p>村田：京都府は生活衛生課がその担当となるが、私ども大変気になっており京都府に問い合わせたところ、京都府は回答できないとして、農水省に確認した。その結果、評価は学校に任せるとの回答でした。 現在は従来通りと解釈している。</p> <p>飛田：本稿の評価シートで京都府に提出しているので従来通りでお願いします。 3年制の申請中、その都度行政には確認はしてみるが、同様の回答になると思う。</p>
教育環境	6-11	<p>インターンシップにおいて、学生に学ばせたい技術、知識などを事前に相談しているか、また評価基準なども相談しているかについて</p> <p>植田 評価については受け入れ店舗店長に任せているがいまのところ問題は上がってこない。</p> <p>インターンシップについて学ばせたい内容を事前に依頼してくるところも特にない。いただいた内容で検討する。</p>	<p>飛田：インターンシップの評価についてYICからも評価シートを渡しているものがあるが、多くの学校でいろいろなフォーマットがありますか、現場での難しさはあるか</p> <p>飛田 他校で相談されている学校はあるか</p> <p>五郎畑：インターンシップ評価シートはない</p>

学習成果	4-1	<p>学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているかについて</p> <p>塚本 採用側から見て、トリマーコースや動物看護の学生は（仕事上の）分類が分かる。</p> <p>ペットのアドバイザーの学生を見ていると使い方、採用の仕方がわからず。トリマーコースの学生ならトリミング、動物看護科であれば看護業務とわかるが、失礼だが、スキルがない。入学時に専門学校を卒業すれば就職に有利とかで入学しているのか、何に特化しているのかわからない。小動物やアクアも分かっていない。ましてや犬猫のこともわかっていない。少し不透明なところがある。</p> <p>犬猫生体の世話ができない。小動物や魚が得意な卒業生もいるが、どちらもできない方が何人かいる。ドッグフードの説明もできないのでどのような学びをなさっているか伺いたい。教えなくても出来る学生さんもいました。店舗を見ていると鳥に餌を与えられない方がいたり、爬虫類さわれませんということがあった。</p>	<p>五郎次郎：教育課程では犬猫、小動物、魚の水槽のレイアウトやメンテナンスを授業で学んでいる。実習も全部やっています。生体を扱うことも多くなるので、生体販売するに当たっての、お客様にお伝えしなければならない項目などを授業で学んでいる。全体でみるとコミュニケーションを取るのが苦手な学生さんがアドバイザーには多い。犬猫ではグルーミングを主体とした授業が入っている。カット以外はできる。爪のお手入れ、耳掃除、お客様への飼育のアドバイスも学んでいる。</p>
		<p>学生の学修成果の評価に際して、育成する人材像に沿った評価項目を定め、明確な基準で実施されているかについて</p> <p>植田：弊社では特徴的なことだと思うが、やりたいことを業務で当たらせている。できないのは採用面接でしっかり確認させていただいているので課題はないかと。</p>	<p>飛田 ありがとうございます。</p>
			<p>細田 話をきいていて昨年と同様に出来ていないと感じた。卒業生の動向調査や卒業教育など、調査は卒業後、3ヶ月、半年、1年と実施するや病院との連携強化 評価については企業連携授業や院内実習では最終は学校で評価するほうがよいのではないかと。</p>
3. 2021年度の取り組みへの報告等			
評価項目	項目	課題と今後の改善	
4. 学習成果	4-3	<p>資格取得率（動物看護師統一認定試験合格率）の向上が図られているかについて別途資料について昨年度の受験人数を合格者数を報告した。</p> <p>2020年度と2021年度を比較すると愛玩動物飼養管理士については2級、1級ともに合格率が上がった。</p> <p>愛犬飼育管理士については100%。サロントリマー検定の3級と1級では3級が66.7%から91.7%と向上した。1級についても4ポイントほど向上した。 JKC公認C級トリマーについては1名不合格となり95.2%となった。</p>	

7) 今後の予定			就職実績については関連業種と他業種、進学、その他に分けて示した。 他業種ではフード事業や自動車販売、製菓、スポーツ事業関連があり、進学は他分野の専門学校への進学者がいた。
	3. 教育活動	3-5	学習参加の前提としているスキルや要件などに不足がないかを確認するためのアンケートやヒアリングを行っているかについて 内部監査・IR 戦略室より昨年度の授業アンケートについて 学科ごとのG P Aの分布や2年生のG P Aの分布 G P Aと出身高等学校偏差値による集計から分かること 授業アンケートよりフリーワードによる各科目ごとの学生からの意見の傾向 授業アンケートより学科別に見られる傾向について報告
	学校関係者評価委員会は年1回の会議はこれで終了。今後もし意見をいただきたい。必要があれば委員会を招集して開催することも可能。		
	項目	項目	内容